

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果及び指導改善 (R5.9.29作成)

文責：教務主任

1 令和5年度の結果から

	本校	県との差	岐阜県(公立)	全国(公立)
【国語】	72	+1.0	71	69.8
【数学】	56	+3.0	53	51.0
【英語】 話すこと除く	45	-3.0	48	45.6
【英語】 話すこと	9	-1.4 全国との比較	データなし	10.4

【国語】

		本校	県との差	県	全国
知・技	言葉の特徴や使い方	68.1	±0	68.1	67.5
	情報の扱い方	63.7	+0.8	62.9	63.4
	我が国の言語文化	75.8	±0	75.8	74.7
思 判 表	A 話すこと・聞くこと	85.3	+1.1	84.2	82.2
	B 書くこと	71.1	+6.7	64.4	63.2
	C 読むこと	70.2	+0.3	69.9	69.4

【数学】

	本校	県との差	県	全国
A 数と式	65.4	+1.8	63.6	63.0
B 図形	38.2	+3.6	34.6	33.2
C 関数	57.0	+4.9	53.1	51.2
D データの活用	57.0	+3.7	53.3	48.5

【英語】

	本校	県との差	県	全国
(1)聞くこと	57.3	-3.4	60.7	58.4
(2)読むこと	52.9	-1.2	54.1	51.2
(3)話すこと [やり取り]	10.7	-3.8	データなし	14.5
(4)話すこと [発表]	2.4	-1.8	データなし	4.2
(5)書くこと	22.3	-4.6	26.9	23.4

(話すことのみ全国との差)

【結果及び分析】

【国語】【数学】はともに、本校の平均正答率は、岐阜県平均・全国平均とほぼ同等の数値、もしくは上回っている。しかしながら、【英語】は岐阜県平均・全国平均と同等、もしくは下回っている。

全校研究主題『主体的に学びに向かう生徒の育成』を掲げ、意図をもって仕組んだ小集団学習を、研究の柱である「熱く語り合う学び」として位置付け、継続的に指導をすることにより、特に国語・数学では活用する力や表現する力の向上につながったことと考える。小集団学習においては、安心して学び合う環境づくりが必要であり、学校生活において、日常的に「温言温動」を認め価値付けてきたことや、ここタンや教育相談を活用しながら生徒が安心して学校生活を送れるよう

に継続的に行ってきた成果である。

どのような場面で小集団学習を行うとよいのか、どのようなメンバーでグループを構成するとよいのか等、学力向上につなげる手立てとしてさらなる授業改善に取り組んでいきたい。

2 生徒質問紙の結果から

※数値は、①～⑥は「1(当てはまる)」と回答した生徒の割合」表している。

【①自分にはよいところがあると思いますか】

	R3	R4	R5
本校	37.0	41.3	45.6
岐阜県(公立)	37.6	38.1	39.2
全国(公立)	34.5	36.0	37.2

【②先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか】

	H31	R4	R5
本校	42.6	57.5	64.1
岐阜県(公立)	37.0	48.1	47.1
全国(公立)	31.3	39.9	40.0

【③将来の夢や目標をもっていますか】

	R3	R4	R5
本校	42.9	33.8	49.5
岐阜県(公立)	42.0	40.1	39.8
全国(公立)	40.5	39.8	39.4

【④話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか】

	R3	R4	R5
本校	40.3	42.5	35.0
岐阜県(公立)	37.2	38.1	39.5
全国(公立)	33.9	34.1	34.3

【⑤いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか】

	R3	R4	R5
本校	72.3	83.8	82.5
岐阜県(公立)	82.5	84.4	81.6
全国(公立)	81.4	82.6	80.3

【結果及び分析】

①②については、昨年度と同等の結果であり、特に②については平成29年度以降、最も高い値となっている。先述の通り日常的に「温言温動」を認め価値付けてきたことの成果であると考えられる。

③について「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒も含めると、73.8%の生徒が「将来の夢や目標をもっている」と感じている。本校では、チームの重点に合わせて行事や講演会を位置付け、達成感や成就感を味わうような年間行事計画に見直したことに意味があったと感じられる。

④について、過去3年間の中で最も低い値となっている。対話的な学びが生徒にとって「深い学び」につながっているかどうかには焦点を置き、さらに意味のあるものになるようにしていく。

⑤については、年間を通していじめを見逃さない日や講演会を仕組んできたこと、人権を中心とする常チーム(第4チーム)の意味付けを行ってきたことの結果であると考えられる。